

7. 各論

(1) 維管束植物

【改訂の概要】

- ・変更した種数※

変更内容	種数	備考
新規追加	62	RDB2014には記載されていなかった種で新たに記載したもの
カテゴリー変更	ランク上昇	RDB2014と比較してランクが上昇したもの
	ランク下降	RDB2014と比較してランクが下降したもの
	情報不足解消	RDB2014では情報不足種とされていたものが、新たにランクづけされたもの
	情報不足	RDB2014ではランクづけされていたものが、新たに情報不足種とされたもの
	合計	RDB2014と比較してカテゴリーが変更されたもの
分類群変更	1	RDB2014と比較して分類群が変更されたもの
名称変更	2	RDB2014と比較して種名等の変更があったもの
削除	17	RDB2014に記載されていたもので改訂版では削除されたもの

※RDB2014 後に追加した 3 種を含めた種数に対する変更内容。

(RDB2014 後に追加した 3 種: 平成 29 年 10 月 1 日 フォーリーガヤ (A ランク) 、令和 2 年 3 月 27 日 カラフトグワイ (A ランク) 及びヒメスズムシソウ (A ランク))。

- ・レッドデータブック 2014(以下、「RDB2014」)では 621 種が掲載されていたが、今回のレッドデータブックでは 48 種増え、669 種となった。新規追加種は 62 種 (シダ植物 9 種、種子植物 53 種) で、前回の改訂 (RDB2001 から RDB2014) と同様に大幅な増加となった。一方、削除種は 17 種 (種子植物のみ) で、半数の減少となった。今回の結果は、県内での現地調査やこれまでに蓄積された植物標本の再検討が進んだことにより、新たな知見が得られ、データの修正が行われたことが大きく関与した。
- ・RDB2014 以降も分類体系の変更が進み、分類群・種名の再検討が行われている。それに対応するように科の配列を変更し、一部、分類群・種名 (見解の相違に基づく場合もある) などの変更も行った。
- ・シダ植物では新たな情報が乏しく、大幅なカテゴリー変更は行わず、新規の追加が主となった。一方、種子植物では絶滅種のマルバヌスピトハギで新たな生育地が確認されたが、野生絶滅種としてエゾオグルマが新たに追加された。一方、ランク下降種数に対してランク上昇種数が多い状況は前回の改訂と変わらない。
- ・RDB2014 では東日本大震災の津波の影響を受けた海浜生植物について、新規追加種と想定される状況を記述したが、今回の改訂ではその後の影響についても検討した。津波による直接的な影響以上に復興関連事

業は、海浜生植物の生存や回復にとって大きな脅威であることに変更はないと判断した。

- ・生存に対する脅威では、北上山地を主にニホンジカによる食害を新たに加えた。すでに森林内の林床では裸地化が進み、植生が脆弱化し、生物的にも防災的にも危機的な状況にあることは明らかである。また、近年の大規模災害の増加とそれに伴う河川・渓流などで行われる防災・復旧工事（河道掘削、堤防・砂防堰堤新設・改修など）もそこに生育する植物にとって脅威となる。さらに、風力発電所の新設、太陽光パネルの設置など、新たな開発事業は草原生植物などの生存に対する脅威となっている。